

## 刃物のまちを 都庁でPR



刃物のまち・関市を首都圏で大々的にPRし、伝統的地場産業である刃物のイメージアップと誘客を図ろうと、東京都庁で7日間の観光物産展を開きました。県内市町村では初めての単独開催で、期間中の1日は尾関市長自らがブースに立ち、「関市長トッ

プセールス中」のたすきをかけて市の魅力をPR。世界に誇る刃物製品をはじめ、円空さといもやしいたけ、ゆず製品などの特産品や観光協会推奨観光土産品などの販売のほか、せき親善大使による観光PRなどを行い、関市の元気を全国に発信しました。

# あんな事、こんな事

関市イメージキャラクター  
「関\*はもみん」



## 一堂に会した音楽の祭典

音楽や表現活動を通じたコミュニケーションによる人間武装を「舞武」と名付け全国へ発信し、市の活性化につなげようと、市内の吹奏楽やダンスチームなどが一堂に会した「チアリングフェスティバル天下舞武」が関市文化会館で開かれました。保育園児らによるミナモダンス、中部学院大学の和太鼓や消防音楽隊による演奏など、迫力ある発表が繰り広げられ、満員の会場が大いに盛り上がりしました。

## 復興支援トラック市が関市へ

全国商工会連合会の被災地復興支援の一環で、東北地方の特産品を全国で販売するキャラバントラック「One Heart号」が道の駅平成にやってきました。東北伝統のご当地グルメなど約100種類の品ぞろえで、多くの来場者が復興を応援しようと、商品を買いました。日本全国で東北の特産品購入の後押しをすることで、経済と中小企業復興の力になることを目指します。





## おいしいラーメンありがとう

子どもたちに屋台の雰囲気を感じてもらおうと、古川幸夫さん夫婦が日吉ヶ丘保育園で、園児たちにラーメンを振る舞いました。古川さんは以前から他園などでも出前ボランティアをしています。園児らはラーメンが出来上がるのを今か今かと待ちわび、本格的なラーメンを受け取ると「おいしい!」と口いっぱいにはおぼりました。中には、お腹を一杯にしながらかかりする子も。心も体も温まりました。

## 市民講師の出番です

市の生涯学習振興大会「講座フェスタ in わかくさ」が開かれ、多くの市民がさまざまな講座を自由に楽しく受講しました。日本舞踊のスポーツ、チェアーピクスや松ぼっくり人形講座、漫画など多彩な15講座でにぎわいました。地域で活動するいろいろな特技や知識を「教えたい人」と新しくじっくり「学びたい人」とが、お互いの意欲をさらに発展させる機会となりました。



## 自然の良好な保全を目指して

池尻地区で5年間取り組まれた「農地・水・環境保全事業」の完了を記念した交流会が開かれました。池尻地域資源保全組合がこれまで実施した坂田池周辺の整備や用水路の清掃、花壇の整備、空き缶拾いなどの活動報告の後、協力する地元老人クラブや子ども会などの参加者に円空汁やみたらし団子などが振る舞われました。自然環境を次世代に引き継いでいくための継続的な活動に理解を深めました。

## 図書館の裏側を体験!

図書館の裏側の仕事を体験する「なりきり! 図書館員」(小学生対象)をグレードアップした大人版の講座が市立図書館で初めて開かれました。選書と発注、書誌の作成、本のビニール装備などの仕事や、カウンターでの接客業務を体験したほか、通常入ることができない地下書庫なども見学しました。参加者は、1冊の本が貸し出されるまでの過程を通し、貸し出す側の苦勞などを理解していました。



## こぼれ話



先日、わかくさ・プラザで開催された(社)岐阜県獣医師会が主催するシンポジウム「学校動物飼育への取り組み」へ取材にお邪魔しました。動物飼育についての総合的な意見交換の場として毎年開催されていて、今年は17回目になります。

2年生児童がウサギの世話をしている桜ヶ丘小学校の実践発表では、ウサギ当番を引き継いだ当初は糞を踏まないように避けて世話をしていた子どもたちですが、「命の大切さを考えるようになった」「動物に優しく

なった」「友達に優しくなった」などウサギの世話を通して気持ちに変化がありました。また、休日の世話など、学校や子どもたちだけでは対応しきれない部分を地域の方がボランティアで協力されています。

愛情と責任を持って一緒に暮らすという覚悟が必要だと思うと、我が家ではなかなか動物を飼うまでには至りませんが、命の尊さやいたわりの心、動物の病気やケガなどで絶えず変化する状況に対応する力など、子どもたちが子どもの時期に動物たちとの経験を通して得られるものは大変大きいと改めて感じました。